

## トーマス・クーフェン エッセン市長の御挨拶

日にち：平成 29 年 12 月 1 日

場所：郡山市役所西庁舎 7 階 郡山市議会議場

佐藤議長、品川市長、そしてご臨席の皆様、本日は郡山市議会において皆様の前でお話させていただく機会を頂戴し、感謝を申し上げます。

また、この場をお借りしまして、エッセン市民を代表して心からのご挨拶をお伝え申し上げます。

私どもの訪日は郡山市とエッセン市、福島県とノルトライン・ヴェストファーレン州との緊密な協力のもとに実現いたしました。

さて、エッセン市では 150 年以上にわたり炭鉱関連の巻上げ煙突や冷却塔がまちのシルエットを形作っていきました。しかし、20 世紀半ばの炭鉱業の危機がまちを変えていきました。炭鉱関連施設は採算が取れず閉鎖されていったのです。ちなみに 1986 年に操業を停止したエッセン市内の最後の炭鉱施設は、今では「ツォルフェアアイン炭鉱業遺産群」としてユネスコの世界遺産に登録されております。

こうした背景から、エッセン市は変わっていかねばなりませんでした。私たちはこの構造変化を乗り切り、危機をチャンスとし、経済の再生を図りました。エッセン市の強みの一つは多様性です。

我が市は 2010 年ヨーロッパ文化首都という称号を得ただけでなく、2017 年にはヨーロッパ緑の首都というまちにも選ばれており、こうした事実からもエッセン市が多様性を有するまちであることを証明しております。

このことは、環境保護や温暖化防止に向けての私たちの取り組みへの評価の表れと受け止めております。エッセン市がヨーロッパ緑の首都に選出された背景には、私たちがこれまで長年にわたり持続可能な都市開発を実践してきたという事実があります。

本日午後には、郡山市とエッセン市は再生可能エネルギー及び医療機器関連産業の 2 つの分野において、「都市間協力に関する覚書」を締結いたします。本覚書の締結は、2011 年に発生した東日本大震災以降、これまで両市民の協力を強化する取組を継続してきた結果として相応しいものであります。そして、このことは持続可能な都市開発を実践する上での重要な観点のひとつとして、長期的で先を見越した政策を行う必要があることを物語っています。

私たちはそれぞれの市において明日の生活や仕事に関する基盤づくりを進めていきます。特に高齢化社会においては、エネルギーや医療に関する問題解決や環境整備に取り組むことは、優れた基盤づくりの重要な要素となっております。現時点において、私たちのまちが 15 年後、20 年後どのような姿になっているのか、様々な考察を巡らせることができます。

優れた基盤づくりを行うためには、アイデア、勇気、実行力、そして共に目標に向かって活動する意欲が必要です。これを地域、そして市の中で行っていきたい、そのように私どもは考えております。

こうしたネットワークや友好関係の構築を、お互いに敬意の念を忘れず、誠意をもって、そして何よりも郡山市とエッセン市の市民のために進めていきたいと考えております。

最後になりますが、エッセン市は炭鉱の伝統があったまちです。もう炭鉱の施設はございませんが、もともと炭鉱の労働者同士が交わっていた挨拶は、いまでも使われておりますので、それを郡山市議会議員の皆様方にお送りしたいと思います。ドイツ語で Glück euch 「幸運を祈ります」という挨拶でございます。ご清聴ありがとうございました。